

- 【宗派】 真言宗御室派
- 【本尊】 毘沙門天（多聞天）三尊
- 【開基】 りょうよしあじやり 良照阿闍梨
- 【創建】 平安時代
- 【歴史】

当山は、平安時代初期の大同4年(809年)藤原内大臣 鎌足公の末子藤原義実の孫、末包和直公(津の郷に住み、宇多津・坂出・丸亀を領地としていました。)が、氏寺として多聞寺を建立し、良照阿闍梨を迎え、護持させたのを開基としています。

室町時代当初の延元4年(1339年)には快賢上人が再建し、その後、南北朝時代には細川頼之公が当寺を居館としたと伝えられています。頼之公は戦勝祈願のため、多聞寺の毘沙門天を熱く信仰し、四国平定を果たしました。重要な地位にあった頼之公の居館がおかれたことにより、当時の宇多津は四国の政治・軍事の中心地として発展していきました。

天正9年(1581年)には長曾我部元親に焼き討ちされ全焼しています。前の本堂は江戸時代中期の享保11年(1726年)建立でしたが、平成8年に形をほぼ同じくして再建されています。現存する本堂は創建以来五度目の再建です。

～細川頼之公～

南北朝時代の武将で、足利尊氏に従って武功がありました。四国はいうまでもなく、中国地方も勢力下に置き、宇多津に居館を設け、現在の香南町岡にも本拠を置いていました。風流文雅の人としても知られ、歌集にも名を連ねています。

境内地には、細川頼之公お手植えとされる**榎柏（別名ミヤマビャクシン）の木**があり、町指定天然記念物(昭和51年3月31日指定)に指定されています。樹齢は約680年、幹周りは4.6m、高さは18mもあります。



榎柏の木

